

校長室からのお知らせ

4月30日号 NO.3

岸和田市立山直北小学校
校長 尾野 武志

自分のことは自分で

以前、退職された幼稚園の園長先生と一緒に園児と先生の様子を参観させていただいたことがあります。工作をする時間でしたが、本当に使うのって疑いたくなるような物まで揃えてある準備物の種類の多さに驚き、先生たちが園児の様子をしっかりと見守り、園児が不安にならないように優しく丁寧な言葉がけで支えている様子に感動し、元園長先生に「幼稚園の先生たちって本当にすごいですね。真似することは絶対できないです。」と私なりの感想を伝えました。すると、元園長先生は「これじゃ、子どもは育たんわ。子どもが考えたり困ったり悩んだりする前に、先生が先に手を出すから、子どもの伸びるチャンスを奪っているわ。これじゃ、あかん。」と幼稚園の先生はすごいと感動していた私とは全く正反対のご意見を持たれていました。さらに「ああやって、子どもを助けてあげていると自分が仕事している気になっているのもあかんわ。待たたらなあかん。待つて待つて、最後の最後に子どもなりにがんばったところを褒めてあげて、子どもを満足させてあげなあかんわ。」とおっしゃられたのをお聞きして、私の浅はかな考えを恥じたことを今でも鮮明に覚えています。

子どもの数が少ない少子化が定着し、過度に子どもの手助けをされる保護者が多くなったと言われていています。子どもが自分でやって当たり前のことなのに、保護者が子どもの代わりにしていることが年々増え続けているそうです。その結果、子どもの自立が遅くなり、子どもの将来にマイナスな影響を及ぼしているとの報告もあるようです。

以下の5点ですが、生活習慣の自立を確かめる項目になるそうです。

- ① 保護者の声掛けや手助けがなくても、自分で朝は起きている。
- ② 自分の衣服を用意し、身だしなみを自分で整えている。
- ③ 学校や習い事に持っていくものの準備や点検ができる。
- ④ 自分の机の上や身の回りの整理整頓ができる。
- ⑤ 決められた時間にゲームやテレビ視聴をやめられる。

これらは将来のお子さまにとっての貴重な財産となるものだと思います。

校長室からのお知らせ

5月8日号 NO.4

岸和田市立山直北小学校
校長 尾野 武志

実は わたし・・・

4月24日（金）の学習参観の日に、来校された複数の保護者の方々から「校長室からのお知らせを楽しみにしている。」という本当にありがたいお言葉を頂戴し、少しでも面白く少しでも役に立つような紙面にしなければという自分勝手なプレッシャーに押しつぶされ、「みなさんが気を使って、優しいお言葉をくださっただけなのだ」と開き直るのに時間を要しました。見た目のふくよかな体形と違って、思っていた以上にプレッシャーに弱かった面を改めて感じております。そこで、家族や知り合いから意外と思われる「実は わたし（尾野）・・・」的なことを書き連ね、閑話（無駄話）の回にしようと思います。

お酒をたくさん呑むようなイメージを持たれることが多いのですが、実はお風呂上りはアルコール飲料よりも、甘ったるい紙パックのコーヒー牛乳を飲みたい派（普通のコーヒーは苦いため飲まないです）です。自宅では、糖分の取りすぎと怒られるので、緑茶の濃い味で我慢しています。お寿司のワサビは涙も鼻水も活性化させるため、遠慮しています。回らないお寿司屋さんで「サビ抜き」と言うのが恥ずかしく無理することが多かったため、ワサビが入っていない回転寿司屋さんをありがたく思っています。

実は神仏を頼りにしており、学校の鍵には安井金比羅宮の「悪縁切守」、家の鍵には八坂神社の「青龍石」のお守りと元伊勢籠神社の「うまいくおまもり」と、外出中は肌身離さず持っている状態です。お守りのおかげで、様々な災難から逃れることができていると思っています。大きな声では言えませんが、校長室にも北野天満宮の「悪疫除札」をおまつりしています。

さて、まとめに入ります。私のような「子どもか？」と突っ込まれるような意外性に価値はありませんが、「えっ。こんなことできるの？」という意外性は、周りの人から親しみや興味を持ってもらうきっかけになるそうです。お子さまに「意外性」を持たせるために、小学生の間に様々な経験をさせる機会を意図的に増やしてあげてもらえればと思います。「誰かがやっている」や「みんながしてる」とは違った視点で誘っていただければと思います